

学力向上のための授業改善推進プラン・昭島市立武蔵野小学校

6 年

教科	本校児童の学力の実態	実態から身につけさせたい「確かな学力」	学年で取り組む具体的な方策	評価
国語	学力テストの結果(東京都平均正答率との比較) 知識・技能(▼-3)思考・判断・表現(▼-8)選択問題(▼-6)記述問題(▼-6)] 《領域別》話すこと・聞くこと(▼-7)書くこと(▼-8)読むこと(▼-9) ○対話的な学習活動では、互いの意見を積極的に伝え合うことができる。 ▲書くことで表現することを得意と感じている児童と苦手意識を感じている児童が二極化している。	・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章を推敲したり、よいところを見付けたりする力	・書くことの単元では、題材選び・構成・推敲などの一つ一つの行程におけるポイントを具体的に指導する。 ・自分の思いを言葉にする時間、友達と読み合ってよりよい表現にするための方法について話し合う時間、自分や友達の作品を読み合いよさを伝え合う時間を設ける。 ・学んだことを他教科で生かす機会を意図的に設定する。	
社会	ワークテストの結果 公民 知識・技能 79点 思考・判断・表現 82点 歴史 知識・技能 76点 思考・判断・表現 72点 ○公民分野の学習は平均すると8割近く取れている。学習に対しても意欲的である。 ▲歴史分野の学習は知識や興味の差が大きい。テストは平均すると7割であり、学習の定着率の差が大きい。	・社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力 ・社会の課題を把握し、その解決に向けての自分の意見を伝える力 ・よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする力	・児童の興味・関心を高められるよう、今の生活と社会の学習が密接に関係していることを実感できる場を設ける。 ・課題解決していく上で調べたことは、自分の言葉でまとめ、グループ学習で自分の意見を説明する場を設ける。 ・学習の定着のために、復習問題に取り組ませる。	
算数	学力テストの結果(東京都平均正答率との比較) 知識・技能(▼-8)思考・判断・表現(▼-10)選択問題(▼-9)記述問題(▼-12) 《領域別》「数と計算」(▼-9)「図形」(▼-8)「変化と関係」(▼-10)「データの活用」(▼-10) ○教え合ったり助け合ったりし、協力して課題に取り組む姿勢が見られる。 ▲学んだことと実生活への結び付きが弱く、生きた学びとなっていない。	・日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力 ・基礎的・基本的な数量や図形の性質や計算の仕方を見だし、既習の内容と結びつけ統合的に考えたり、そのことを基に発展的に考えたりする力	・基礎基本の定着に向けた意図的、計画的な復習問題の取り組み。 ・数学的な見方・考え方を働かせ、算数の学習を生活や学習に活用するなどの数学的活動を各領域で実践していく。 ・PDCAサイクルの充実に向けた、振り返りの実施。振り返りでは、学習内容の確認や理解度の確認を行う。	
理科	学力テストの結果(東京都平均正答率との比較) 知識・技能(▼-3)思考・判断・表現(▼-5)選択問題(▼-5)記述問題(▼-8) 《領域別》「エネルギー」(▼-6)「粒子」(▼-1)「生命」(▼-5)「地球」(▼-2) ○実験や観察については、どの児童も意欲的に取り組んでいる。調べ学習においてもすすんで調べ学習に励む姿勢が見られる。 ▲実験や観察で得た知識が問題解決に結びついていない。	・自然事象の変化や働きについてその要因や規則性、関係を多面的に分析し考察して、より妥当な考えを自ら見付けつくりだす力 ・問題解決の過程に関してその妥当性を検討する態度や知識・技能を実際の自然事象や日常生活などに適用する力	・課題の解決に向けて単元を進めていく過程で、児童に自己評価を行わせ、児童の理解状況を確認する形成的評価を行う。これを基に個に応じた指導を行う。 ・単元に応じて、児童が獲得した知識や技能を実生活の様々な場面に活用できるかを問う課題を「活用課題」として作成し、単元末に位置付ける。この「活用課題」によって、児童が獲得した知識や技能を実際に活用することができるかどうかを評価し、指導と評価の一体化を図る。	
音楽	○教え合ったり、合わせたりするなど自分たちで練習方法を工夫しながら活動に取り組むことができる。 ▲技能の定着に差がある。 ▲自分で課題を解決する力が弱い。	・粘り強く学習に取り組む力 ・分からないことを解決していく力	・音楽が苦手な児童用と得意な児童用の楽譜を用意するなど、個々に適した目標を設定できるようにし、目標を達成できた経験を増やしていく。 ・分からない時にどうしたらよいかを確認する時間を設定する。	
図工	○やる気と授業に活気があり、どんな課題も興味をもって取り組むことができる。 ▲発想力や技能に大きな差がある。	・豊かに発想したものを表現する力	・プロの作家などの、よい作品をたくさん鑑賞し、色彩感覚や造形感覚を養っていく。 ・作品の完成時だけでなく、作品の中間などでも児童同士で鑑賞したり、助言をしたりする場面を意図的に増やす。 ・導入時に基礎基本の指導を継続していく。	
家庭科	○裁縫・調理ともに、意欲的に学習に取り組む児童が多い。 ▲前年度調理実習を実施できていないため、技術の差が大きい。	・日常生活の課題を見出し、課題を解決していく力 ・家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する力	・自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりする学習活動を行う。 ・ICTを活用して、実習等における情報の収集・整理や、実践結果の発表等を行う。 ・自分で調べたり教え合ったりしながら取り組めるようにする。	
体育	○できないことや分からないことでもあきらめずに友達と教え合ったり助け合ったりして課題解決を図ろうとする意欲的な姿勢が見られる。 ▲課題解決に向けての解決方法や目標達成に向けての過程を計画する思考力に課題を感じる。	・課題発見能力、課題解決能力	・運動が苦手な児童でもすすんで運動に取り組めるようなグループ編成にする。領域や実態によって技能同質グループや技能異質グループなど編成方法を工夫する。 ・楽しさや成長の価値付けを行う。(PDCAサイクルの充実)学習に対する自らの成長や楽しさを実感できるよう意図的計画的に振り返りをおこなっていく。	